

2018年 3月期 決算説明会資料

2018年5月23日
明星工業株式会社

目 次

I . 前中期経営計画の総括	P. 2
II . 2018年3月期決算の概要	P. 5
III . 2019年3月期の業績予想	P. 13
IV . 新中期経営計画の概要	P. 17
V . Appendix	P. 24

I . 前中期経営計画の総括 (2015年 5月 8日公表)

前中期経営計画の概要と成果

■ 建設工事業はマーケット環境（海外分野、国内メンテナンス分野、LNG関連分野等）が寄与し計画数値を達成したが、ボイラ事業は需要減少等により未達。全体では前中期経営計画の数値目標を達成。

スローガン

飛躍に向けて限りなく挑戦

【1】 企業力の強化

【計画概要】

差別化、コスト競争力の強化、顧客満足度の向上 等

【結果】

国内メンテナンス案件、LNG案件への対応力推進（人員体制の強化・コスト意識の徹底）。補償工事・不採算工事が発生。施工・採算管理の徹底が課題。

【2】 事業領域の拡大と強化

【計画概要】

新たな事業領域の拡大・創出、グローバルな事業展開

【結果】

海外プロジェクトの受注と施工能力を強化（オーストラリア・マレーシア・シンガポール・インドネシア）。海外領域においても広く事業展開。

【3】 組織基盤の活性化

【計画概要】

事業環境に応じた弾力的・機動的な組織体制の構築

【結果】

重要・成長分野への人材の重点投入と世代交代を見据えた計画的な確保と育成を実施。

【4】 社会的責任の推進

【計画概要】

企業の社会的責任の強化

【結果】

法令遵守の徹底と事業を通じた社会貢献の推進。

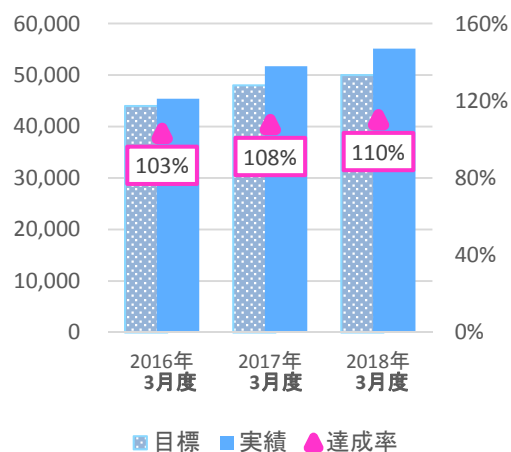
前中期経営計画の数値目標と達成率

■各計画期間において数値目標を達成。採算管理の徹底により、営業利益は計画平均9.1%から実績平均11.6%へ。

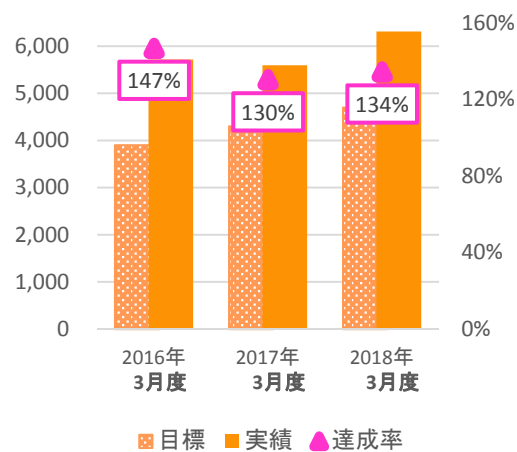
(百万円)

	2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績
売上高	44,000	45,412	48,000	51,715	50,000	55,146
営業利益	3,900	5,716	4,300	5,596	4,700	6,300
経常利益	4,000	5,796	4,400	5,706	4,800	6,487
当期純利益	2,500	3,923	2,800	3,919	3,050	4,357

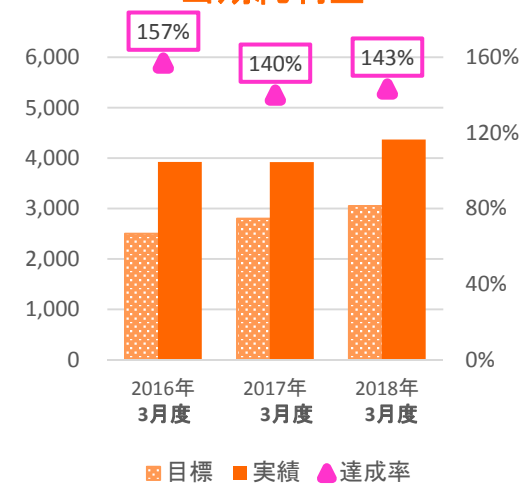
売上高



営業利益



当期純利益



Ⅱ. 2018年3月期決算の概要

2018年3月期の決算実績



■前中期経営計画最終年度。全体計画において全項目で計画数値を達成。要因は建設工事業の海外工事進捗、国内メンテナンス工事も堅調に推移。ボイラ事業は新設工事減少等により減収・減益。

(百万円)

	2017年3月期 実績	2018年3月期			
		実績	予想 (2017/5/10公表)	対前年同期 増減・率	対予想 増減・率
売上高	51,715	55,146	50,000	3,431 6.6%	5,146 10.3%
建設工事業	46,302	50,779	45,000	4,477 9.7%	5,779 12.8%
ボイラ事業	5,413	4,366	5,000	△1,046 △19.3%	△633 △12.7%
売上総利益	9,834	10,782	9,500	947 9.6%	1,282 13.5%
営業利益	5,596	6,300	5,000	704 12.6%	1,300 26.0%
経常利益	5,706	6,487	5,100	781 13.7%	1,387 27.2%
当期純利益	3,919	4,357	3,400	438 11.2%	957 28.2%
受注高	49,348	53,687	50,000	4,338 8.8%	3,687 7.4%

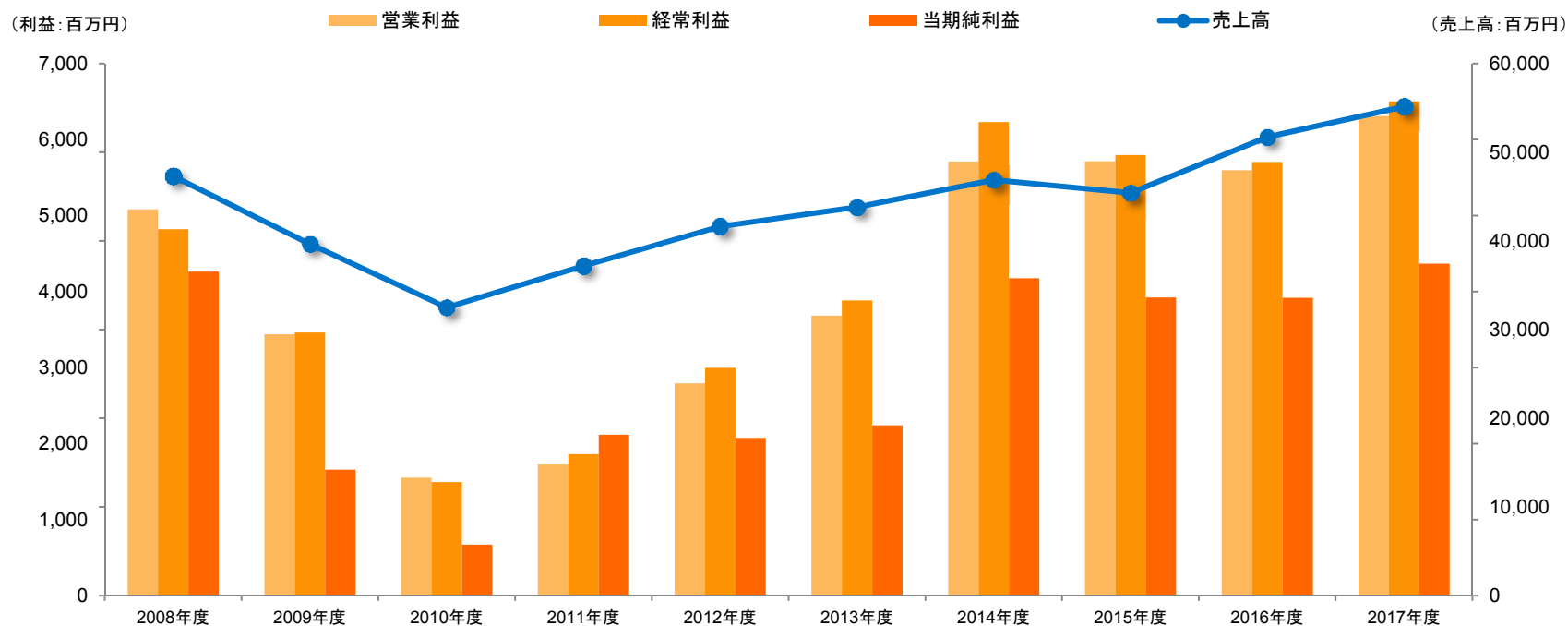
業績の推移(過去10期)



■ 2008年度の金融危機により、2010年度から2013年度は国内外で需要が減少。2014年度からは当社関連国内投資の回復・海外新設工事の受注や、バイオマス発電の増加等により、高水準での業績を継続。

(百万円)

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
売上高	47,288	39,653	32,504	37,178	41,629	43,813	46,873	45,412	51,715	55,146
営業利益	5,082	3,439	1,552	1,726	2,793	3,684	5,711	5,716	5,596	6,300
経常利益	4,821	3,462	1,494	1,861	2,997	3,883	6,231	5,796	5,706	6,487
当期純利益	4,262	1,658	672	2,116	2,075	2,240	4,176	3,923	3,919	4,357



貸借対照表

■ 過去2期間末に増加した立替工事資金も当期末は減少し、現預金は増加。

(百万円)

	2017年3月期	実績	2018年3月期	
			対前年同期 増減・率	主な増減要因
流動資産	38,455	41,351	2,896 7.5%	現預金の増加 6,464 売上債権の減少 3,383 たな卸資産の減少 746
固定資産	19,766	21,668	1,902 9.6%	有形固定資産の減少 383 投資不動産の増加 2,190
資産合計	58,221	63,020	4,798 8.2%	
流動負債	11,929	13,621	1,691 14.2%	
固定負債	4,818	4,013	△805 △16.7%	仕入債務の減少 1,367 未成工事受入金の増加 1,305 未払税金の増加 1,285
負債合計	16,748	17,634	886 5.3%	
純資産合計	41,473	45,385	3,912 9.4%	当期純利益の計上による増加 4,357 その他包括利益累計額の増加 315 剰余金の配当による減少 829
負債純資産合計	58,221	63,020	4,798 8.2%	

貸借対照表の推移(過去10期)

■ 安定した財務基盤が構築・継続。2007年度より10回、14,631,000株^(※) (うち7,000,000株は消却済)、4,690百万円の自己株式取得を実施。

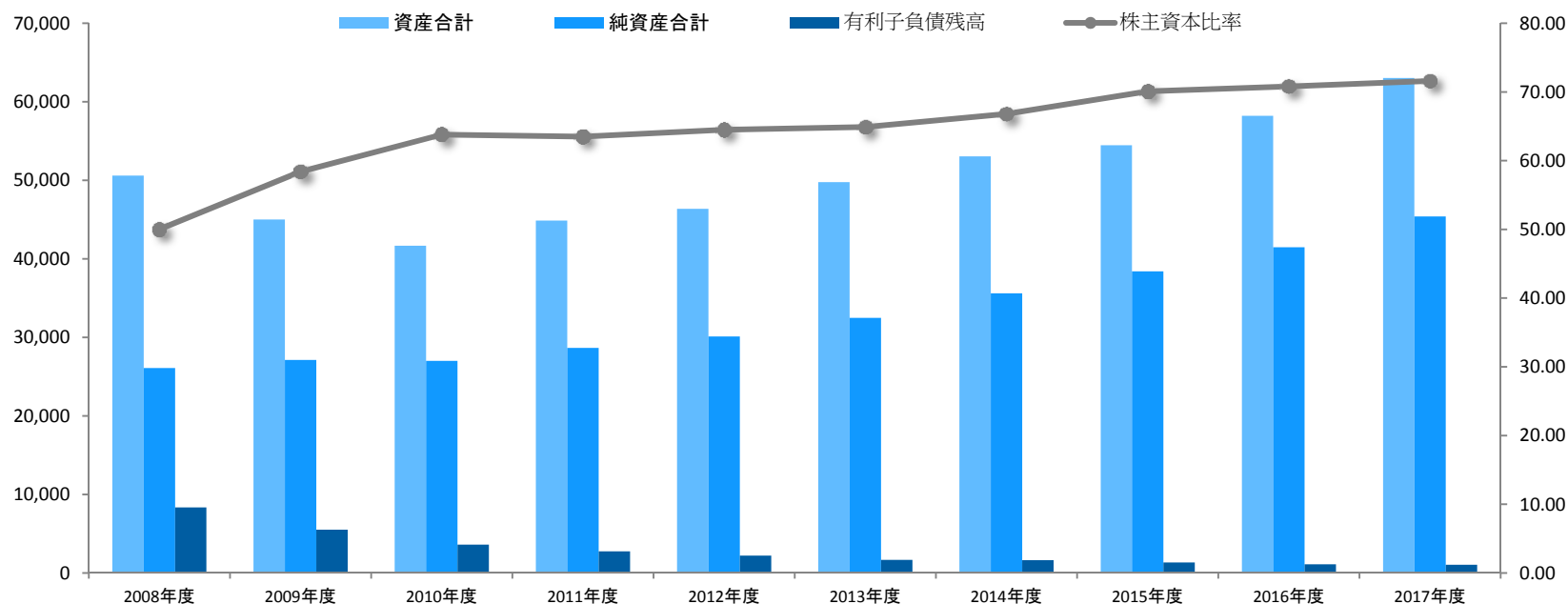
(※) 2007年度末発行済株式総数の22.0%

(百万円)

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
資産合計	50,596	45,009	41,672	44,875	46,375	49,776	53,052	54,463	58,221	63,020
純資産合計	26,101	27,124	27,016	28,660	30,110	32,485	35,613	38,402	41,473	45,385
有利子負債残高	8,352	5,515	3,604	2,750	2,215	1,676	1,628	1,330	1,114	1,042
株主資本比率	50.0	58.4	63.8	63.5	64.5	64.9	66.8	70.1	70.8	71.6

(資産・負債:百万円)

(株主資本比率:%)



キャッシュ・フローの状況



■税金等調整前当期純利益の計上及び立替工事資金の回収によりフリー・キャッシュフローは8,450百万円増加。

(百万円)

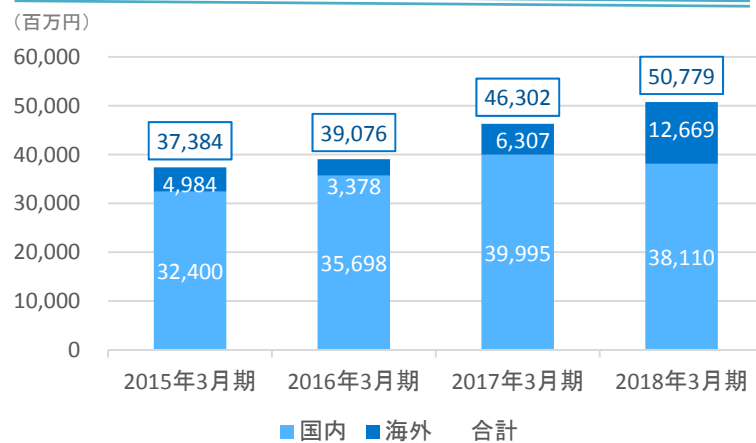
	2017年3月期	2018年3月期		
		実績	対前年同期増減	主な要因
営業 キャッシュ・フロー	399	9,763	9,364	増加要因 税金等調整前当期純利益 6,487 売上債権の減少 3,383 減少要因 法人税等の支払額 1,743 仕入債務の減少 1,355
投資 キャッシュ・フロー	△1,235	△2,149	△913	減少要因 投資不動産の取得による支出 1,937
フリー・ キャッシュフロー	△836	7,614	8,450	
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,318	△856	461	減少要因 配当金の支払額 827
現金及び現金同等物 の増減額	△2,248	6,787	9,035	
現金及び現金同等物 の期首残高	15,325	13,077	△2,248	
現金及び現金同等物 の期末残高	13,077	19,864	6,787	

セグメント情報 【建設工事業】

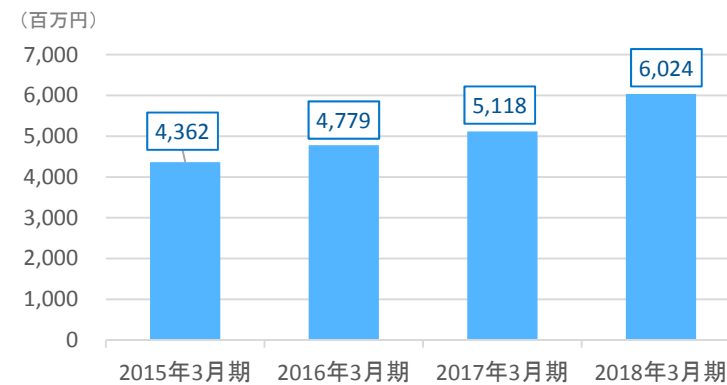


■ オーストラリア工事の進捗により、2018年3月期の海外売上高割合は24.9%を計上。国内の各事業領域も順調に伸長し、全体の営業利益率(4期間)の平均は11.7%。

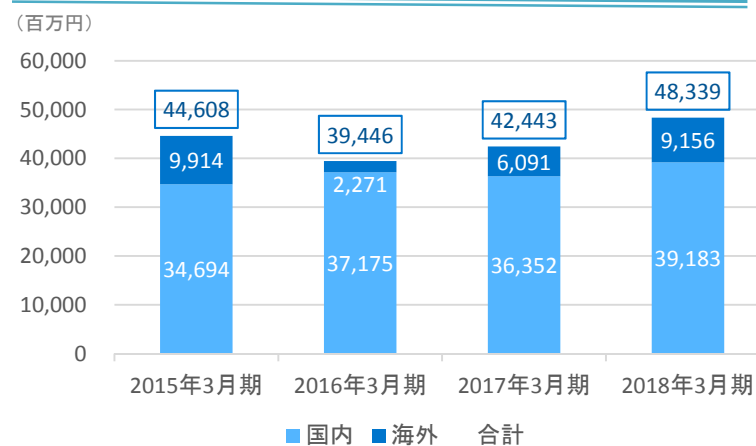
売上高推移



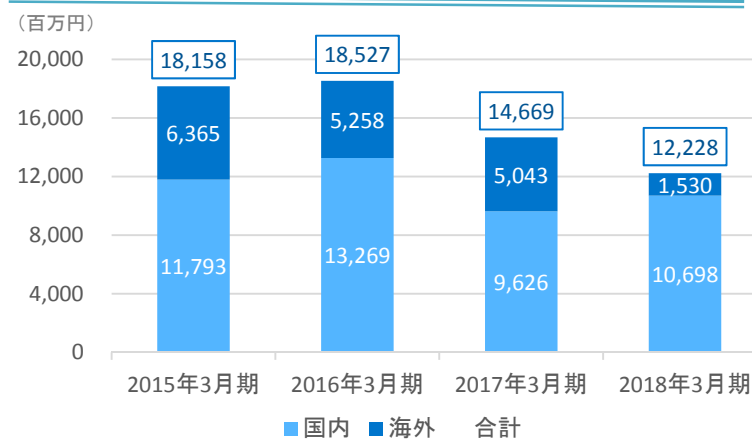
営業利益推移



受注高推移



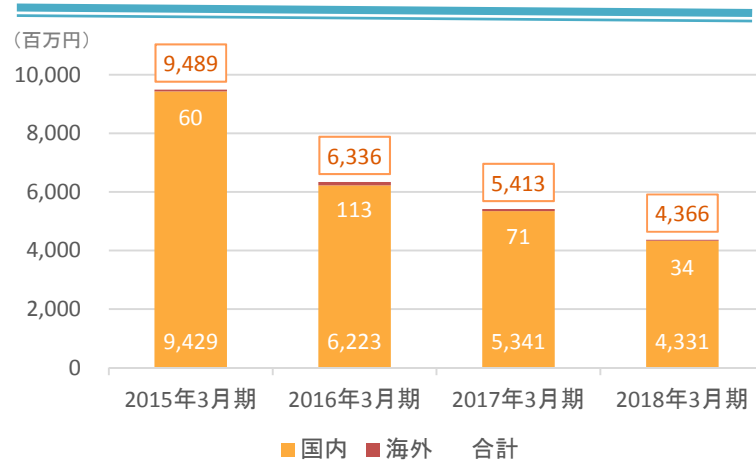
受注残高推移



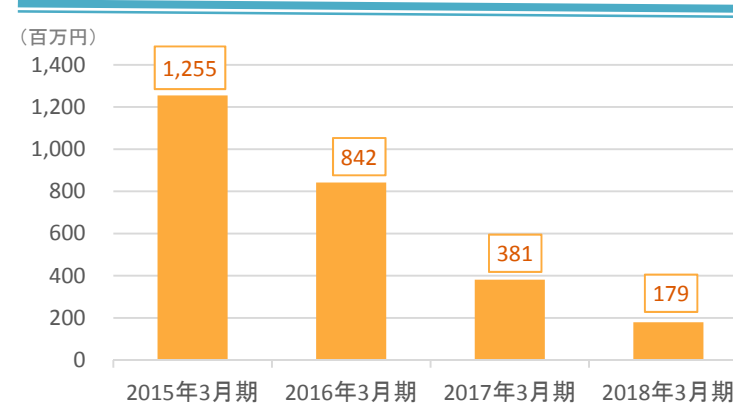
セグメント情報 【ボイラ事業】

■ 売上高は受注単価の低下により減収。営業利益も額・率ともに低下。受注残高は新設工事の累積により増加しているため、2018年度以降の業績に寄与。

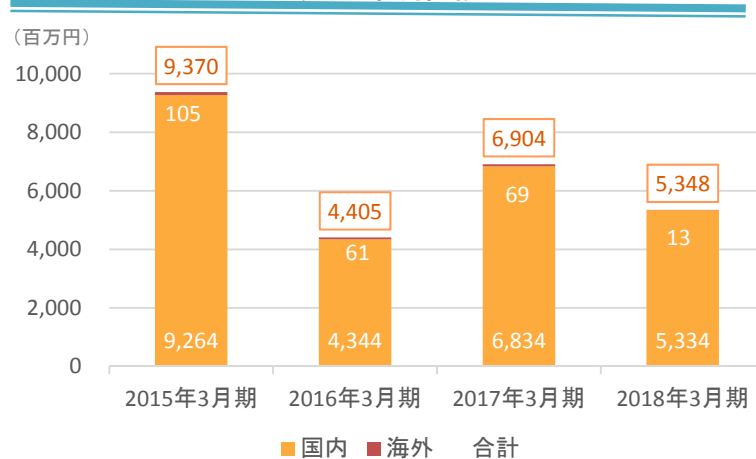
売上高推移



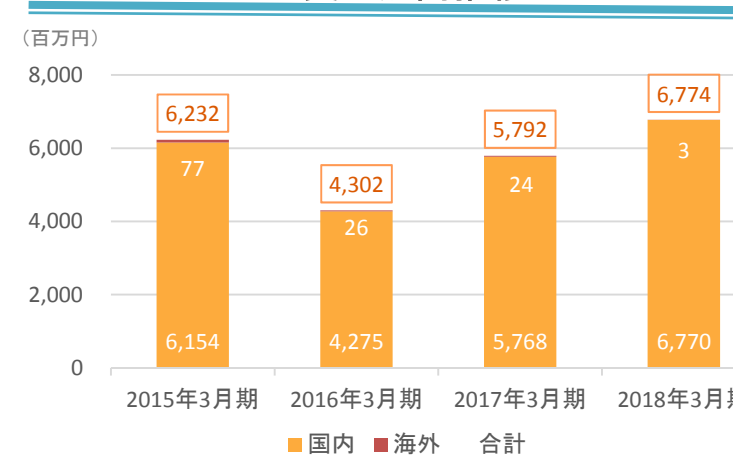
営業利益推移



受注高推移



受注残高推移



Ⅲ. 2019年3月期の業績予想

2019年3月期の業績予想

■売上高は、建設工事業は国内メンテナンス工事は堅調に推移するが、海外工事・LNG工事は減少する見込み。ボイラ事業は受注済新設工事の進捗が寄与し増加する見込み。全体では減収・減益の見通し。

(百万円)

	2018年3月期 実績	2019年3月期	
		予想	増減 予想比
売上高	55,146	50,000	△5,146 △9.3%
建設工事業	50,779	43,500	△7,279 △14.3%
ボイラ事業	4,366	6,500	2,133 48.9%
売上総利益	10,782	9,600	△1,182 △11.0%
営業利益	6,300	5,100	△1,200 △19.1%
経常利益	6,487	5,250	△1,237 △19.1%
当期純利益	4,357	3,450	△907 △20.8%

2019年3月期のセグメント別業績予想

■ 建設工事業の売上高は、海外工事が減少すること等から、減収・減益の見込み。ボイラ事業は受注済新設工事の進捗が寄与するが、引き続きバイオマス発電・産業用・メンテナンス各工事の受注獲得に注力。

売上高

(百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	増減
	実績	予想	
建設工事業	50,779	43,500	△7,279
ボイラ事業	4,366	6,500	2,134
合計	55,146	50,000	△5,146

営業利益

(百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	増減
	実績	予想	
建設工事業	6,024	4,680	△1,344
ボイラ事業	179	420	241
消去	96	—	△96
合計	6,300	5,100	△1,200

受注高

(百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	増減
	実績	予想	
建設工事業	48,339	43,500	△4,839
ボイラ事業	5,348	6,500	1,152
合計	53,687	50,000	△3,687

受注残高

(百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	増減
	実績	予想	
建設工事業	12,228	12,228	0
ボイラ事業	6,774	6,774	0
合計	19,003	19,003	0

利益配分、株式の状況

■ 業績に対応するものとして配当性向30%程度、または12円の何れか高い方とすることを、利益配分の基本方針としている。今後も弾力的な自己株式の取得を検討。

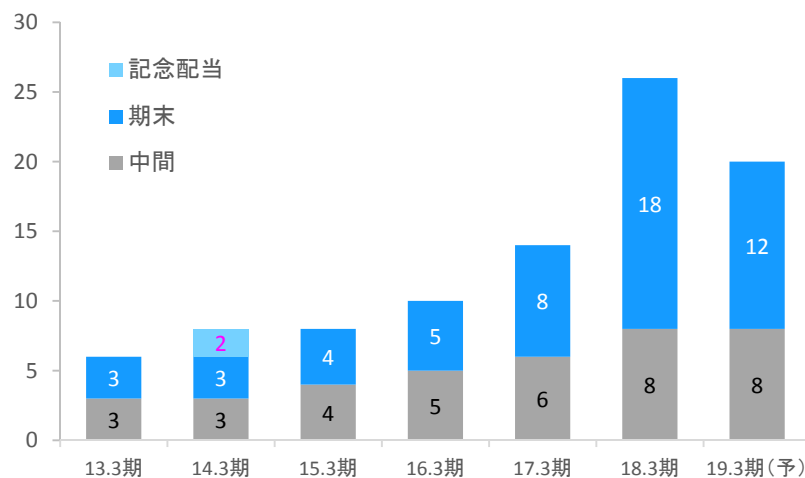
2018年3月期 実施

■ 配当性向30.9%	中間	8円
	期末	18円
	合計	26円

2019年3月期 予定

■ 配当性向30.1%	中間	8円
	期末	12円
	合計	20円

1株配当金の推移



※2014年4月1日に創業70周年を迎えたため、2014年3月期末において記念配当を実施

自己株式取得について

2018年3月末時点の自己株式の保有状況

- 発行済株式総数 59,386,718株
 - 発行済株式総数(自己株式除く) 51,907,929株
 - 自己株式数 7,478,789株

弾力的な自己株取得の実施

- 前中期経営計画期間の買付状況 1,500,000株

IV. 新中期経営計画の概要 (2018年度～2020年度)

(2018年 5月10日公表)

● 明星グループに関連する設備投資の動向

▶ 製造業は減少基調

理由: 海外への生産拠点の移管

過剰設備の統廃合、老朽設備の廃止と集約化

▶ 生産性向上・保守(延命化等)に関連した投資は引き続き堅調

▶ 環境関連・クリーンルーム・冷凍庫の各事業領域も堅調に推移

▶ 発電所新設・更新に関連した投資案件増加

● エネルギー関連事業の動向

▶ 再生可能エネルギー関連(バイオマス発電)の潜在需要

● 不安材料

▶ 国内マーケットの縮小基調、海外マーケットにおける競争激化

▶ LNG等エネルギー運搬船の顧客受注動向

▶ バイオマス発電用燃料の高騰と長期安定調達難による需要動向

▶ 人件費増加によるコストアップ、国内外の施工管理・技術の伝承

中期経営計画の概要

■ 持続的な成長を成し遂げ、新たな発想で企業価値を創出するために、新たに3カ年の中期経営計画を策定。

スローガン

新たな価値の創造

基本方針1

環境変化への対応と挑戦

【計画概要】

- ・新たな成長分野への経営資源の選択と集中
- ・技術力、信用力の有効活用
- ・事業拡大への迅速・果敢な挑戦

基本方針2

持続的成長への礎を構築

【計画概要】

- ・新規顧客の開拓
- ・既存顧客に対する深耕営業
- ・事業領域の拡大
- ・連続的な海外事業の拡大
- ・環境事業分野の充実
- ・M&Aによる事業の多角化

基本方針3

安定した収益の確保

【計画概要】

- ・施工能力の高度化
- ・市場競争力の強化
- ・徹底した採算管理
- ・収益力の強化

基本方針4

活力ある企業風土の醸成

【計画概要】

- ・従業員の資質向上
- ・働きがい・魅力ある職場造りの推進
- ・優秀な人材の確保・育成

基本方針5

企業価値の向上

【計画概要】

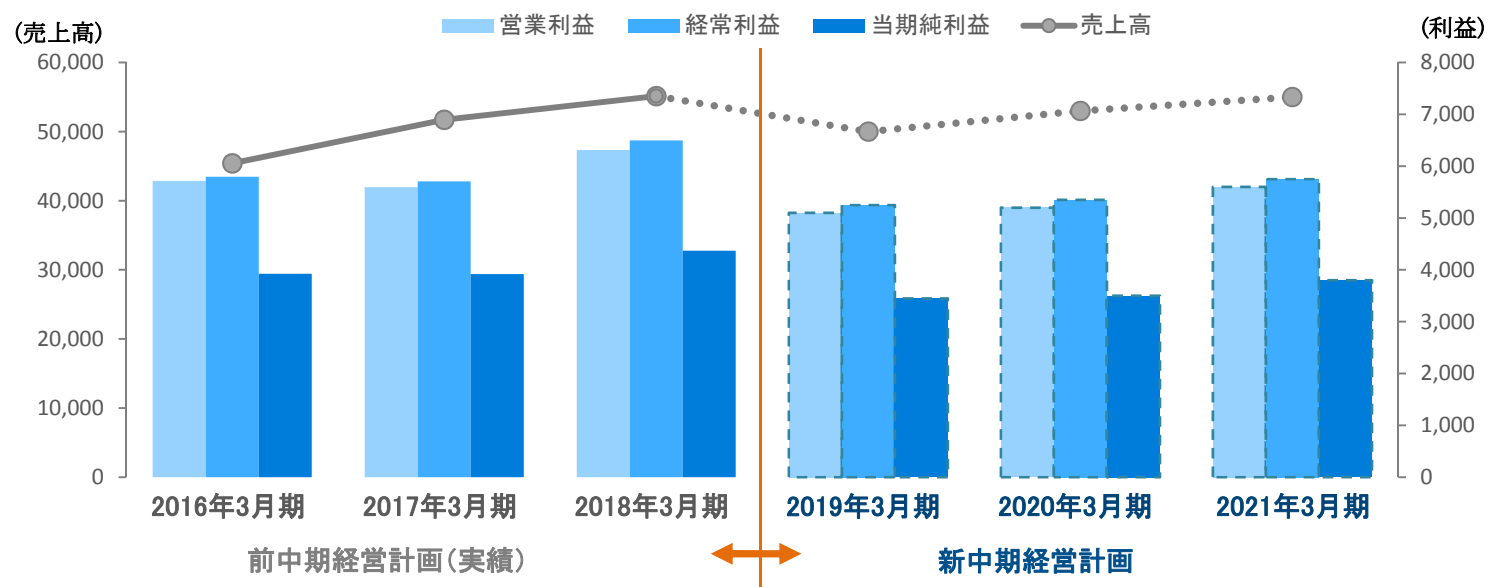
- ・法令遵守の徹底
- ・事業を通じた社会貢献の推進
- ・内部統制システムの円滑な運用

中期経営計画の数値目標

■ 国内市場の縮小基調や海外新設工事の一巡等厳しい状況に対処するため、最終年度に向け海外工事、LNG・メンテナンス工事を主に受注獲得に注力。ボイラ需要の掘り起こしにも積極的に取り組む。

(百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
売上高	50,000	53,000	55,000
営業利益	5,100	5,200	5,600
経常利益	5,250	5,350	5,750
当期純利益	3,450	3,500	3,800



セグメント情報 【建設工事業】

事業環境 認識

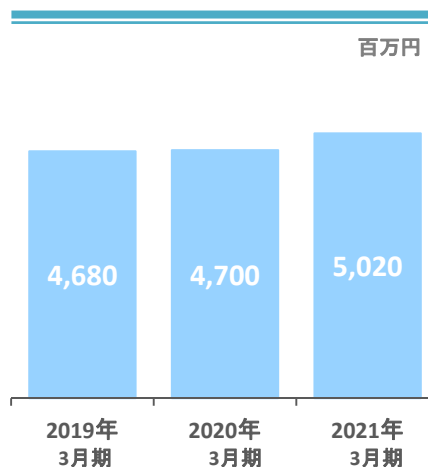
海外は新設工事の完工及び受注の端境期となり減少。
国内LNG工事も減少する予想。
一方、国内メンテナンス工事は効率化・延命化投資は継続することが予想され、
堅調に推移する見込み。

海外工事については、人員体制やマネジメント力の強化等により、新規顧客の開拓や既存日系企業への深耕営業を強化。国内メンテナンス工事については、技術力・施工能力の強化による高付加価値化を推進し、他社との差別化を図り既存エリアの拡大に注力する。

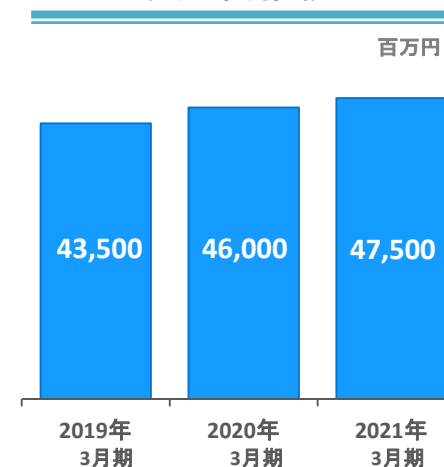
売上高推移



営業利益推移



受注高推移



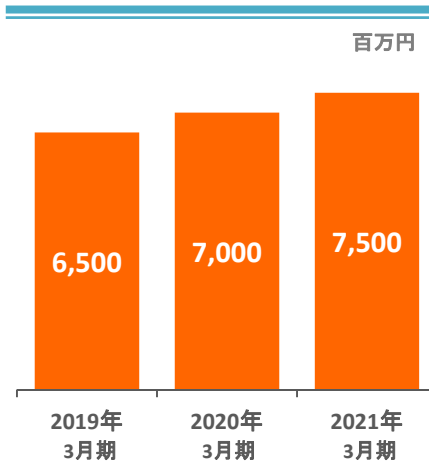
セグメント情報 【ボイラ事業】

事業環境 認識

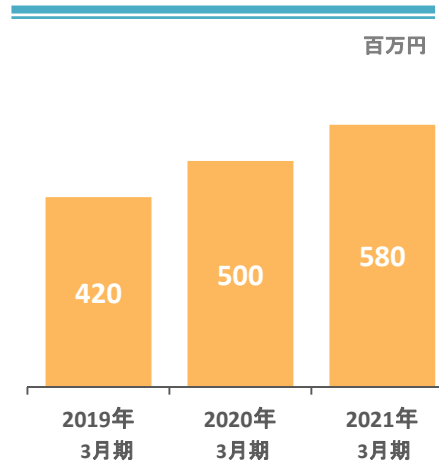
バイオマス発電設備については、燃料の高騰や安定確保の問題はあるが、買取価格が逡減している太陽光発電と比べた採算有利性もあり、新設に向けた潜在的需要は引き続きあり。

安定した需要が見込めるメンテナンス工事をベースに、バイオマス発電・産業用ボイラの新設工事受注に注力。採算管理を徹底しコスト競争力の強化を図る。

売上高推移



営業利益推移



受注高推移



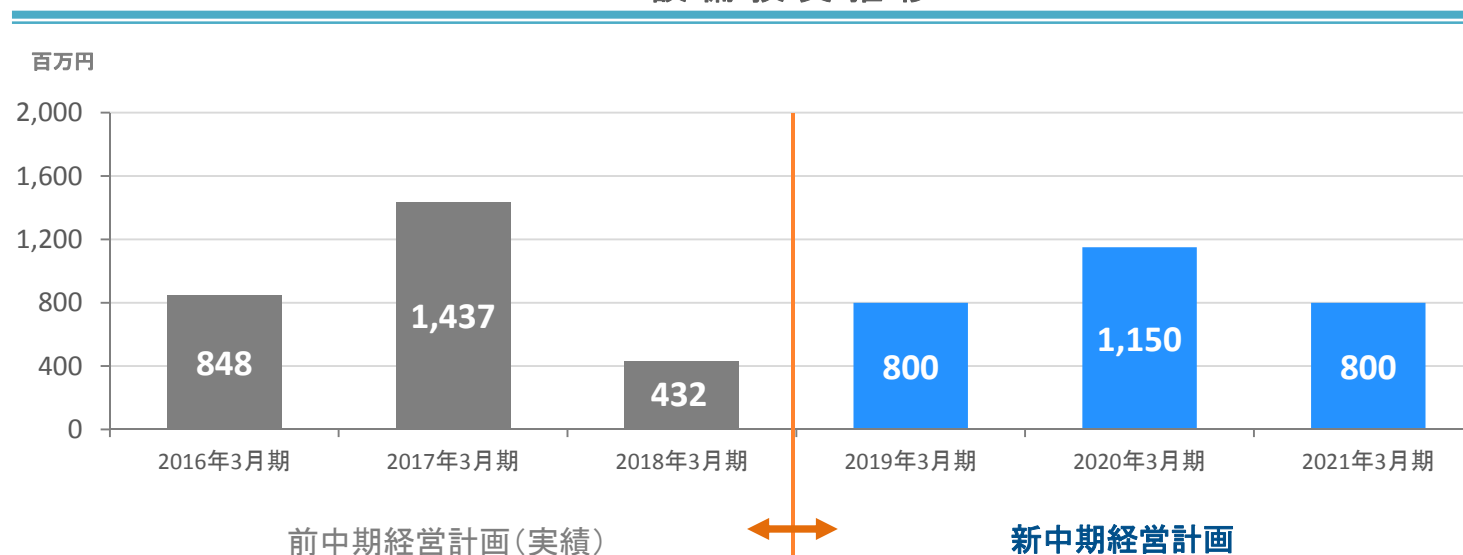
設備投資計画

■ 2017年3月期に終了した浜松工場におけるパネル生産能力増強投資に続く工場建屋更新、研究・開発装置及び建設用資機材の購入、本社ビルや事業所建屋の維持・更新投資を主に、3カ年で2,750百万円の投資を計画。

(百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
設備投資	800	1,150	800
減価償却費	550	560	590

設備投資推移



V . Appendix

会社概要



(2018年3月31日現在)

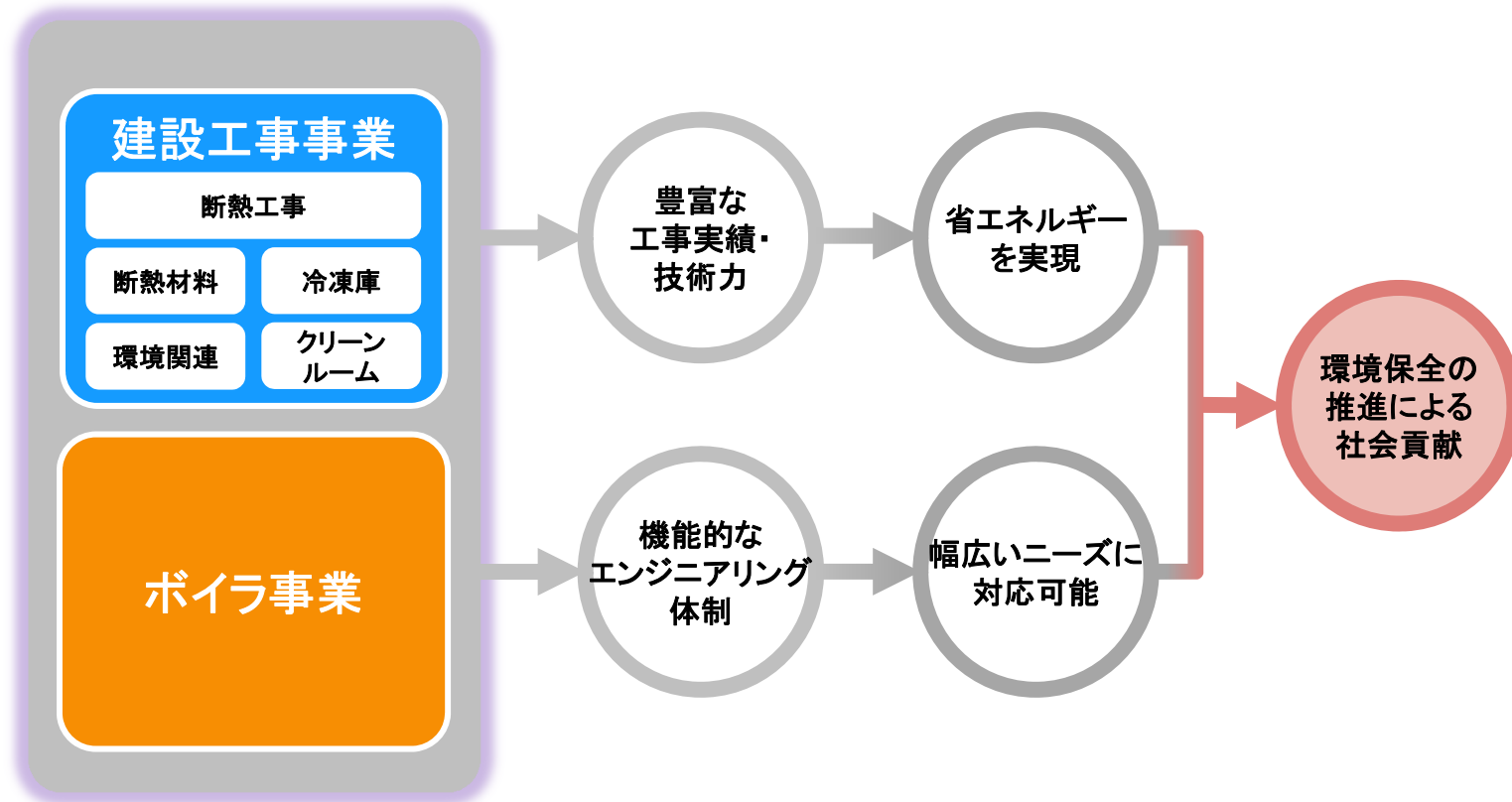
設立	1947年7月2日
本社	大阪府大阪市西区京町堀一丁目8番5号
資本金	6,889百万円
決算	3月
代表者	代表取締役社長 大谷 壽輝
従業員数	317名 (連結632名)
発行済株式数	59,386,718株 (うち自己株式 7,478,789株)
株主数	28,452名

グループ企業(連結子会社)

	国内	海外
建設工事	<ul style="list-style-type: none"> ■ 明星建工株式会社 ■ 日本ケイカル株式会社 ■ 株式会社エムエステック ■ メイセイ工事株式会社 ■ 株式会社メイセイクリエート ■ 明星松山工事株式会社 	<ul style="list-style-type: none"> ■ MEISEI INTERNATIONAL PTE.LTD. (シンガポール) ■ PT. MEISEI INDONESIA (インドネシア) ■ MEISEI NIGERIA LIMITED (ナイジェリア) ■ MEISEI INTERNATIONAL CO., LTD. (タイ) ■ SMI GLOBAL SDN. BHD. (マレーシア)
ボイラ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 株式会社よしみね 	—

事業内容

- 明星グループは、断熱工事のノウハウをコアの技術とした建設工事業（断熱工事・断熱材料・冷凍庫・環境関連・クリーンルーム）とボイラ事業を行っております。
- 長年培ってきた豊富な工事实績・技術力を活かし、省エネルギーの実現を図っております。また、機能的なエンジニアリング体制を構築することで、顧客の幅広いニーズに対応しております。
- 省エネルギーの実現と顧客の幅広いニーズに対応し続けることにより、「環境保全の推進による社会貢献」を目指しております。



建設工事事業（断熱工事）

保温・保冷

保温(30°C~650°C)
防露(0°C~30°C)

- 省エネルギー
- 所定温度の維持
- 災害防止
- 結露防止



<化学プラント等>

築炉耐火・耐火断熱

耐火築炉(1200°C~2000°C)
耐火断熱(650°C~1200°C)

- 燃烧効率の向上
- 構造物の保護



<加熱炉内セラミックファイバー施工>

耐火被覆

火熱による倒壊を防止するための工事

- 石油精製・石油化学・液化ガスプラントなどのパイプラック
- 機器スカート
- ケーブルトレイ



<球形タンク脚柱耐火モルタル被覆>

LNG・LPG

保冷・超低温
(マイナス162°C~0°C)

- 温度上昇の防止
- 気化の防止

→ LNG(液化天然ガス)
LPG(液化石油ガス)

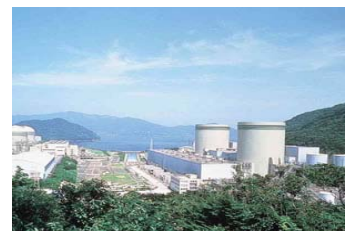


<LNG船(モス方式)>

原子力

原子力発電プラントの断熱

- 一般の保温技術に加えて、放射能汚染を防止など、特別に設計された精度の高い材料と工法



<原子力発電所>

【需要エリア】

- 海外LNGガス出荷基地(液化装置)
- LNG・LPG運搬船
- 国内LNG受入基地(受入タンク)



<LNGタンク防熱(パネル工法)>

建設工事業（その他）

断熱材料

- けい酸カルシウム保温材のトップメーカー
- 国内外の主に石油化学、火力及び原子力発電、製鉄や都市ゴミ焼却場等各分野のプラントで幅広く使用されている



<けい酸カルシウム保温材>

冷凍庫

- 冷熱のトータルエンジニアリング築造冷蔵庫・パネル冷蔵庫等の防熱工事
- 結露対策及びメンテナンス



<冷設・防熱工事>

環境関連

- コンクリート構造物の補修・補強
- 焼却場設備
- 煙突
- 防音
- アスベスト除去



<高架橋橋脚の補修>

クリーンルーム

最先端の作業環境を提供

- 半導体・液晶パネル等のエレクトロニクス産業
 - 医学・薬学等のバイオテクノロジー産業
 - 食品加工・工場農業等の分野
- クリーンルームの需要(利用)分野が拡大している



<クリーンルーム>

当社のボイラ

水管式固形物 燃焼ボイラ	石炭、木屑、ゴム、バガス、オイルパーム、もみがらなど、燃焼物に応じた燃焼システムの選定が可能なボイラ
水管式パッケージ ボイラ	上下ドラムに垂直な水管を連結した対流伝熱部と、全面輻射水冷壁構造の燃焼室をもつ可搬式パッケージボイラ
水管式廃熱 ボイラ	廃ガスの性状に応じたボイラ
水管式排熱 ボイラ	排ガスの性状に応じたボイラ

バイオマス発電

バイオマスとは、化石資源を除く動植物に由来する有機物であり、「カーボンニュートラル」なエネルギー源として利用可能なもので、利用と同時にバイオマス育成することによって追加的にCO2が発生しない再生可能エネルギーです。

海外事業への取り組み

- 1960年代前半よりアジア、中東、アフリカ、南米など世界30カ国以上に進出
- 納入実績：約500缶
- 国内で使用される燃料の他に、海外特有のバイオマス燃料を販売
- 海外での圧力容器制作、部品調達

燃焼技術で低炭素社会・循環型社会の実現



国内・海外ネットワーク

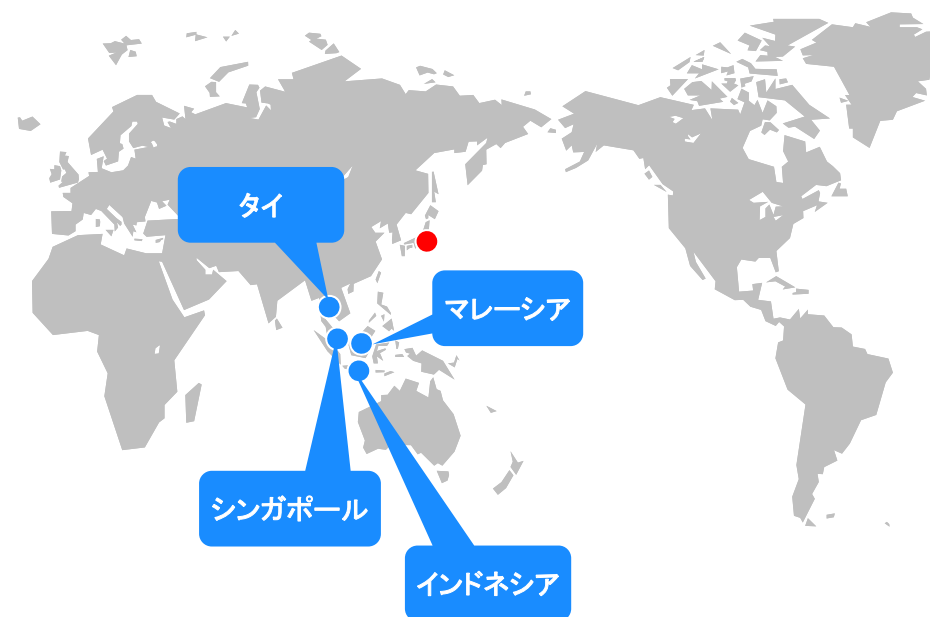
- 主要工業地帯や発電所を中心に、全国37箇所（※）に営業所を配置し、日常メンテナンス工事を継続的に受注。
- 本社・東京本部を中心に、国内外における新規建設・メンテナンス案件の獲得に注力。

国内事業所



事業所			
● 東部支店	12営業所	● 西部支店	18営業所
● 近畿・中部支店	7営業所		

海外事業所



海外実績	
▶ 東南アジア	▶ 中近東
▶ アフリカ	▶ オセアニア
▶ 東欧	▶ 南アメリカ

お問い合わせ先



明星工業株式会社 財務部

〒550-0003

大阪市西区京町堀一丁目8番5号

TEL 06-6447-0275

FAX 06-6448-5321

URL <http://www.meisei-kogyo.co.jp>

本資料は投資勧誘を目的とした資料ではありません。参考資料であり、正確な決算数値等は決算短信・有価証券報告書等をご参照ください。本資料に記載しております当社の計画及び業績予測は、現時点で入手可能な情報に基づき算定しておりますが、業況の変化等多分に不確定要素を含んでおります。そのため、実際の業績が予想数値と異なる可能性がございますことを予めご承知おきいただきますようお願いいたします。